

外務省での研修を通じて

平成29年2月
外交実務研修員 桐井 宏輔
(北海道から派遣)

1 はじめに

平成27年8月に北海道から外務省に派遣され、欧州局日露経済室で研修をしております。約2年間の研修期間も残りわずかとなったところ、この度、外交実務体験記に寄稿する機会をいただきましたので、当室での研修を振り返って御紹介したいと思います。

2 日露経済室での業務

日露経済室は日本とロシア両国間の経済関係について所管している部署であり、更なる日露経済関係の発展のため、民間企業を交えた二国間の経済会議の開催や、日本企業がロシアで進めているビジネスのフォロー等を行っております。

最近の日露経済関係は、昨年5月に安倍総理からプーチン大統領へ8項目の「協力プラン」を提示し、このプランの具体化に向けた作業を日露両国で進めた結果、12月のプーチン大統領訪日時に計80件の当局間・企業間文書が署名されるなど、関係進展の機運が高まっています。

8項目の「協力プラン」は(1)健康寿命の伸長、(2)快適・清潔で住みやすく、活動しやすい都市作り、(3)中小企業交流・協力の抜本的拡大、(4)エネルギー、(5)ロシアの産業多様化・生産性向上、(6)極東の産業振興・輸出基地化、(7)先端技術協力、(8)人的交流の抜本的拡大からなり、このうち私は主にエネルギー関係を担当しております。

ロシアは、生産量で原油は世界第3位、天然ガスは世界第2位のエネルギー資源に恵まれた国であり、日本の原油・LNG（液化天然ガス）輸入量のそれぞれ約1割を占めています。エネルギー供給源の多角化を進める日本にとって、ロシアは重要なパートナーの一つと言えます。



日露共同記者会見で握手を交わす両首脳
(官邸ホームページより)

3 日露経済室に約2年間身を置いて

着任してまず感じたのは、職場全体のスピード感と、ハードワークをものともしない職員個々の事務処理能力の高さです。

特に昨年は、8項目の「協力プラン」の具体化のため、数時間単位で期限を定められている仕事が多くありましたし、また、東京よりも時差が2時間早いユジノサハリンスク総領事館などからロシア極東に関する情報収集をしつつ、東京よりも時差が6時間遅いモスクワにある在ロシア日本大使館を通じてロシア政府と意見のすりあわせを行っていく仕事も多くありました。

その中で、「研修員」である私も室内でのサポートをいただきながら、いくつかの案件の調整を任せていただいたこともあり、『ハードワークをものともしない』の部分はある程度室員に追いつけるようになったかと思います。こうした業務を通じて、私にとってのこの約2年間は、これまでほとんど考えていなかった「国益」を意識する、とても密度の濃い日々となりました。

今年もすでに日露間で要人往来が活発に行われており、今後も日露関係が注目され続けることが予想されます。こうしたダイナミックな日露関係の動きの中で仕事ができることは大変幸せなことですし、北海道に戻った後も何かしらの形で日露関係の後押しができればと考えております。

(了)